

平成 30 年度の研究開発実施計画

平成 30 年度より、大阪府立能勢高等学校生徒は 2 年次生、3 年次生で、1 年次生は大阪府立豊中高等学校能勢分校生徒となる。従って SGH 対象生徒は、2 年次生、3 年次生となり、以下の SGH の取組みを実施する。1 年次生は SGH 対象外生徒ではあるが、SGH 活動を継承した取組みを実施する。

- (1) スーパーグローバル(SG)基礎知識講座、(2) スーパーグローバル(SG)重点分野講座、(3) 海外実態調査、(4) 国内実態調査、(5) モンゴル国立大学でのワークショップ(WS)、(6) 国立プトラマレーシア大学でのワークショップ(WS)、(7) 海外からの留学生とのワークショップ(WS)、(8) 課題研究成果発表会

(1) スーパーグローバル(SG)基礎知識講座 [2, 3 年次生全員が受講]

次に示すそれぞれの力をつけるために、主に「総合的な学習の時間」で講座を展開する他、担当各教科が日々の学習活動の中でも取り組む。これらの学びを統合し、グローバルな視点から地域に貢献しようとする意欲を持った生徒の育成をめざす。また、自らの学びを、筋道を立ててまとめ説得力のある伝え方を習得させる。年度末に発表会を開きその成果を確認・共有する。

- ・論理的に考えそれを表現する力 …… 国語・英語
- ・データを活用し筋道を立てて整理する力 …… 数学・情報
- ・グローバルな視点で課題を把握する力 …… 地歴・理科・家庭・農業

外部の講師を招いた講座等として、各教科で次のように計画している。

	2 年次生：総合的な学習の時間・各教科	3 年次生：総合的な学習の時間・各教科
4 月	「JICA・海外青年協力隊」 (JICA 関西訪問 海外青年協力隊員)	
5 月	「世界の貧困～100 人村 WS～」(本校教員) 「SDGs について」(大阪大学 今岡良子)	「世界に繋がる自己表現」(Cheers Inc. 月田有香)
6 月	「モンゴルの文化紹介」 (モンゴル民族音楽家 サウガゲレル)	「バックパッカーから能勢の古民家へ」 (農家民宿みちくさ 三上順子)
7 月	「留学生から見た日本」マレーシア留学生	
9 月	「日本に暮らす外国人」 (箕面市国際交流協会 中村綾)	「世界のために自分でデザインする人生・SDGs を学ぶ」(関西学院大学 久木田純)
10 月	「ボルネオ熱帯雨林の生態系と経済活動」 (大阪教育大学 乾陽子)	「ピースボートに乗って」 (コアプラス武田みどり)
11 月	「グローバルな視点からの復興への取組み」 (立命館大学 久保田崇)	「グローバルな視点からの復興への取組み」(立命館大学 久保田崇)
12 月	「文化論から見た国際比較」 (箕面市国際交流協会 荻野克彦)	

(2) スーパーグローバル(SG)重点分野講座

2 年次生の SGS においては、一つのグローバルな課題に対して、課題研究を軸に多面的なアプローチで学習を深め、グローバルな課題が能勢地域における共通課題と繋がっていることを理解させる。また、SDGs についての学びを深め、グローバルな視点を持った地域貢献活動のリーダーとしての資質を育成する。3 年次生は、これまで学んだことを基礎に具体的実践活動への参加や、学んだことを後輩や学校外部へ発信する機会を設け、3 年間の学びを深める機会とする。

① 2 年次生 [選択科目「スーパーグローバルスタディ (SGS)」選択生徒 15 名]

- ・選択科目 SGS (2 単位) と土曜日及び放課後に講座を開講
課題研究テーマ：モンゴル「貧困とストリートチルドレン」
— 自立的な地域社会の構築と相互連携 —
- ・SG 英語プレゼンテーション講座
ネイティブ講師による英語活用能力の育成のための講座

② 3 年次生 [前年度選択科目「スーパーグローバルスタディ (SGS)」選択生徒 12 名]

- ・放課後演習：課題研究テーマ「経済発展と自然破壊」「マレーシア ジェンダーを考える」
- ・土曜日等の校外活動：地域での成果発表

課題研究テーマ：モンゴル「貧困とストリートチルドレン」

— 自立的な地域社会の構築と相互連携 —

外部の講師を招いた講座等として、各教科で次のように計画している。

	2年次生：（学校設定科目）スーパーグローバルスタディ（SGS）
4月	「モンゴル遊牧民の生活・ジェンダーセンターの活動（全15回）」 （大阪大学 今岡良子・エネビス） 「それぞれの立場に立った模擬議論」（イング総合計画株式会社 齊藤俊幸）
5月	「旅が教えてくれること～タイ文化～」（農家民宿みちくさ 三上順子） 「日本の貧困問題を考える（全3回）」（暮らしづくりネットワーク北芝 松村幸裕子）
6月	「モンゴルの養蜂」（本校農業科教員） 「モンゴルの子どもたちの支援」（フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 中島早苗） 「フィリピンの貧困対策、マングローブ植林」（オイスカ関西研修センター 清水利春）
7月	「フェアトレードの理念と実践」（エスペーロ能勢 齋藤和子） 「タイ ジャパンエキスポ」（Cheers Inc. 月田有香）
9月	「モンゴルチャリティ学習（文化祭）」（大阪大学 今岡良子・エネビス） 「開発途上国での支援活動」（オイスカ関西研修センター 清水利春） 「国際交流協会の役割」（箕面市国際交流協会 河合大輔） 「子どもたちの教育と未来」（コアプラス 武田緑）
10月	「パームオイルとボルネオ保全活動」（サラヤCSR推進部 小辻昌平） 「フェアトレードを超える国際支援ビジネス」（マザーハウス 濱口香織）
11月	「世界の視点から地域を再生する」（イング総合計画 齊藤俊幸） 「能勢を変えるための17の目標“能勢SDGs”を考える」（イング総合計画 齊藤俊幸）
	「課題研究英語プレゼンテーション（全10回）」（ティモシー カーン）

	3年次生：放課後演習・地域での成果発表
4月	「地域への発信を考える」（グループディスカッション） 「地域での発表1～マレーシアでの経験を活かす～」（能勢地域小中高一貫教育総会）
5月	「SGHの学びを後輩に伝えるには」 「2年次SGS講座生徒に伝える～メンターとして指導～」（Cheers Inc. 月田有香）
7月	「世界での学びを地域へ伝えるには」（Cheers Inc. 月田有香） 「地域での発表2～世界での学びを地域へ～」（能勢中学校 先輩は語る会）
10月	「SGHの学びを進路に活かす」（トリガーワークス 松見敬彦）

(3) 海外実態調査

実施期間を平成30年8月4日（土）～8月10日（金）とする。大阪大学 今岡良子准教授の指導のもと、モンゴルウランバートルにあるジェンダーセンタートルゴイド地区でのリサーチや地区高校生との交流、JICAモンゴル等でのフィールドワークとモンゴル国立大学でのワークショップ、さらには、ストリートチルドレンを支援する養蜂農家へのインタビューや現地サクラ高校との交流を行う。参加生徒は、スーパーグローバル重点分野講座を選択する2年次生15名の中から8名選抜する。選抜方法は、海外実態調査に活かせる英語力、海外調査の適性及び海外活動への意欲を測ることとする。

モンゴルで起こっている問題に対する解決手法を多層的・多角的に見ることで、地域課題への共通項を理解し、能勢高校生として持っている役割や何をすべきかが見えてくる。これらの経験や学びを日本語また英語で発信し、論理的に伝えられる力の伸長をめざす。

(4) 国内実態調査

実施期間を平成30年8月21日（火）～8月24日（金）とする。大阪大学 今岡良子准教授の指導のもと、岐阜県恵那郡加子母村を訪問し、一村一品、地産地消、環境保全による地域活性化について調査研究する。現地住民及びNGO、モンゴルからの研修生との交流やワークショップなど、フィールドワークを通じて、持続可能な地域活性化を学ぶ。参加生徒は、スーパーグローバル重点分野講座を選択する2年次生15名の中から7名を選抜する。海外実態調査と同様に、日本の他の地域で起こっている問題を多層的・多角的に見て、自らの地域課題の発見と解決の道筋を考える。

(5) モンゴル国立大学ワークショップ・インタビュー

2年次生8名が、海外実態調査でモンゴル国立大学を訪問し、同大学の教員及び学生とワークショップ、そして、インタビューを行う。英語による課題研究の成果発表や教員や学生等からの指導助言や評価を受ける。受けた評価を課題研究に反映し、必要であればデータや意見をさらに提供していただき、より説得力のある課題研究のプレゼンテーションを作成することをめざす。

- (6) 国立プトラマレーシア大学ワークショップ・インタビュー
 修学旅行で国立プトラマレーシア大学を2年次生全員が訪問し、同大学の教員及び学生とワークショップ、そして、インタビューを行う。英語による課題研究の成果発表や教員・学生から評価を受ける。受けた評価を課題研究に活かし、より客観性を持った課題研究にする。また、英語によるプレゼンテーションへの評価を活かし、英語表現力・運用力の向上をめざす。

(7) 海外からの留学生とのワークショップ

2, 3年次生全員を対象とし、本校を訪問する外国人学生と交流活動や交換プレゼンテーションを行うなど、共同でワークショップを行う。英語での実践的コミュニケーションの良い機会とするだけでなく、異文化理解やグローバルな課題を考える機会となるよう、ワークショップにおける話題・題材を工夫する。

内容等	期日・場所・協力大学等	回数	参加人数
デイキャンプ	平成30年6月 大阪国際大学	1	26
環境教育・英語村	平成30年7月 公立鳥取環境大学	1	20
マレーシア姉妹校の訪問受入・交流	平成30年9月 本校	1	100
オイスカマレーシア高校生の訪問受入	平成30年11月 本校	1	100
イベント協働参加	平成30年11月 モンゴル祭り	1	20
長期・短期留学生の受入	平成30年4月～平成31年2月	通年	100

(8) 課題研究成果発表会

- ・中間発表会（全国公開） 11月9日 2年次 SG 重点分野受講生徒による発表
- ・研究発表会（全国公開） 2月10日 2, 3年次 SG 重点分野受講生徒による発表
- ・プトラマレーシア大学で英語による研究発表 1月28日
2年次生 SG 重点分野受講生徒が進めてきた課題研究を発表
- ・2年次生校内発表会（能勢地域公開） 2月
2年次生全員が、2年間の SG 基礎知識講座から課題を発見し進めてきた課題研究を発表
- ・3年次生校内発表会（能勢地域公開） 1月
3年生全員が、3年間の取組みのまとめとして課題を発見し進めてきた課題研究を発表

課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（ 契約日～31年3月29日）											
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
(1)基礎知識講座												→
(2)重点分野講座												→
(3)海外実態調査				→								
(4)国内実態調査						→						
(5)モンゴル国立大学WS				→								
(6)プトラマレーシア大学WS									→			
(7)留学生とのWS												→
(8)課題研究成果発表								○			○	
(9)その他											○	
・生徒アンケート			○								○	
・英語ホームページ												→
・運営指導委員会				○							○	

* 学校体制変更後の1年次生についての計画

豊中高校能勢分校 1年次生の取組み（SGH 対象外生徒）
 能勢高校 SGH 活動の取組みを継承し、以下のような研究開発を実施する。

① グローバル探究基礎講座

「産業社会と人間」や教科での日々の学習活動の取組みで、次に示すそれぞれの力をつける
 論理的に考えそれを表現する力・・・国語・英語
 データを活用し筋道を立てて整理する力・・・数学・情報

グローバルな視点で課題を把握する力・・・地歴・理科・農業
 生活者の視点から課題を検討する力・・・公民・家庭・保健体育
 外部の講師を招いた講座等として、各教科で次のように計画している。

	1年次生：各教科・産業社会と人間 等
5月	「グローバル探究について」：産業社会と人間
6月	「地域の自然環境とその希少性」：農業
7月	「開発途上国での支援活動」（オイスカ関西研修センター 清水利春）：公民
9月	「フィリピンチャリティ学習（文化祭）」（オイスカ関西研修センター 清水利春） 「モンゴルチャリティ学習（文化祭）」（大阪大学 今岡良子・エネビシ）
10月	「サバイバルイングリッシュで交流」（元青年海外協力隊 小早川勝平）：英語
11月	「国際NGOの仕事」（フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 中島早苗）：家庭
12月	「紙芝居で世界をつなぐ」（やっさん一座 安野だんまる）：国語
1月	「JICAの役割」（JICA関西 河合憲太）：産業社会と人間
2月	「環境で世界と日本を繋ぐネットワーク」（公立鳥取環境大学 中橋文夫）：情報

②課題研究成果発表会

1年次生では、全員がグローバル探究基礎講座で課題を把握し、グループで分担して探究を進め、2月に校内発表会（能勢町公開）を行う。

③グローバル探究重点講座

1年次後期に希望者を募り、土曜日及び放課後に課題研究講座、英語プレゼンテーション講座を開設。SGSの流れを汲む2年次選択科目(学校設定科目)「プレ課題探究GS」の事前学習を行う。

④SGH研究指定終了後（平成32年度以降）の研究開発

1～3年次生で、SDGsの学びを軸に、グローバル探究基礎講座及び重点講座を中心に課題研究を進める。海外調査はオイスカ関西研究センターの協力を得て、2、3年次生重点講座選択者からの一部生徒が、8月にフィリピンアブラ市オイスカ研修センターを拠点にマングローブ植林の実践・調査活動とマニラ大学で調査研究を行う。また、2年次生重点講座選択者からの一部生徒が1月実施のマレーシア修学旅行3日前から修学旅行初日まで調査活動を行う。活動場所は、サバ州コタキナバル、またはマレー半島タマンネガラとする。調査活動終了後は、クアラルンプールで修学旅行本隊と合流し、プトラマレーシア大学にて研修を行う。姉妹校アスタ高校にて課題研究発表を行う。長期・短期留学生の受け入れを継続するとともに、海外の高校・大学からも訪問を受け、グローバル体験の機会を得る。また、在大阪モンゴル国総領事館とも連携し、モンゴル祭りへの積極的な参画や、留学生との交流も行う。3年次で生徒全員が履修する「課題探究GS」の活動と併せて、課題研究発表会も継続して実施する。